

# ICT・生成AI を利活用した授業づくり



## わたしたちが目指す授業

### 「3つの姿」がみられる深い学びの実現

#### 探究

自ら疑問や問い合わせを生み出し続けるとともに、それを解決するためのプロセスを思考判断しながら、主体的に探究していく姿

#### 協働

問題の解決や目標の実現を協働しながら達成するために、必要な役割分担や協働方法を自ら見出し、自分の考えを適切に表現し合いながら、互いに学びを深めていく姿

#### 自己調整

学んだことや考えたことを自ら振り返るとともに、評価やアドバイスを基に自ら次の学びに活かそうとする姿

#### 問題推進力 とする 授業実践

##### 問い合わせの立て方

深い学びを導くための問い合わせの立て方を研究する。  
教科で学ばせたい知識や視点、考え方を活用して答える問い合わせを模索する。

##### 回答の共有

生徒が気付いたこと、疑問に思ったこと、話し合ったことを活かして、クラス全体をより深い学びに導く方法を研究する。

## 目指す授業を実現するために

### 私たちが採用した「ICTツール」



iPad



ロイロノート



ChatGPT



Canva



Google for Education

- タッチペンとキーボードも必須
- すぐに起動、いつでもどの科目でも使える
- 丈夫で故障が少なく汎用性が高い
- 優れた手書き性能
- 高校卒業後も使用可能

- 数式も図も絵も手書きで書ける
- 先生が作ったプリントに直接書き込める
- 考えたことを共有する機能が強力
- 大量のプリントとノートがこれ1つに

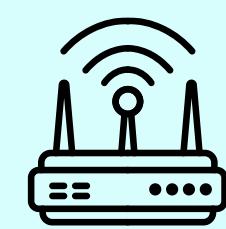
- 探究的な学びをサポート  
対話的に「質問する→回答を得る」のサイクルを実現可能
- 個別最適な学びの実現をサポート  
プロンプトで考えの添削や評価ができる

- 簡単にポスターやスライドを作成可能
- 複数人で同じデザインを編集できる
- 素材が豊富なので誰でも気軽に利用できる
- 生成AI機能でプログラミング教育も可能
- 高度なデザインを描けるAffinityが使用可能

- スライド作成、文書作成、表計算によるデータ管理
- 課題の提出・評価など、すべてオンラインで実現
- いろいろな端末から利用できる

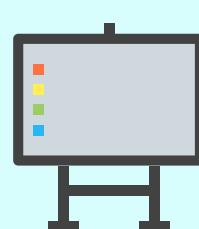
## 目指す授業を実現するために

### いつでもどこでも活用できる環境整備



#### APの整備

APを特別教室や体育館含むすべての教室に整備。どこでもつながるネットワークの実現。



#### 電子黒板の整備

すべてのHR教室に75インチの大型電子黒板を整備。それに伴い、遮光カーテン・ホワイトボードもすべての教室に整備。



#### 職員用iPadの整備

職員にも生徒と同じiPad、タッチペン、キーボードを配付。授業づくりを強力にサポート。



#### 配信システムの整備

電子黒板をさらに活用するため配信システムを導入。生徒総会や集会も簡単に各教室へ配信可能に。



#### AppleTVを全教室に

AppleTVをすべての教室に整備。ワイヤレスで手元のiPadを電子黒板に投影可能に。



#### iMac部屋を整備

さらに高度な情報教育の実現のため新たに部屋を整備し、iMacを31台導入。

## 目指す授業を実現するために

### ワクワクするいくひの3研修



#### いくひの授業づくりを知る：年3回実施

授業づくりの共通したビジョンを新着任者含めた全教員が認識することを目的とする。本校教員によるモデル授業や大学准教授のワークショップ、公開研究授業や授業実践後の研究協議などで共有・改善を図る。



#### 教科をチームに：年5回実施

事務連絡等で終わりがちな教科会を、本来あるべき姿に変えていく。研究ICTグループがファシリテーターとなり、授業についての実践例や困りごとなどをワイワイ・ガヤガヤ共有できる場をつくる。



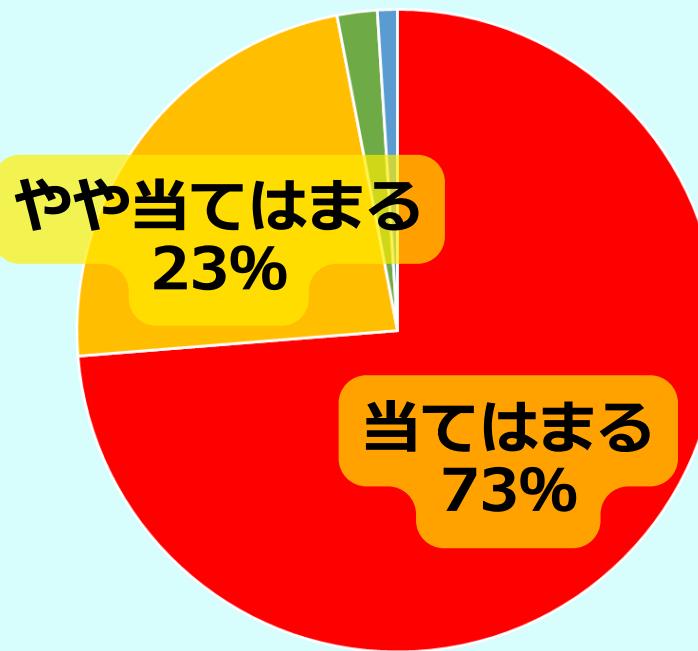
#### 短時間でも有意義に

職員会議後に5分程度の時間で行う情報提供の場。ロイロノートなどをはじめとするソフトの便利な機能紹介を行ったり、ICTに関する先生方の質問等についての共有を行ったりする。また、先生方の実践例なども取り上げる。

## 数字で確認！授業評価アンケートから見る

### いくひの ICT 利活用状況

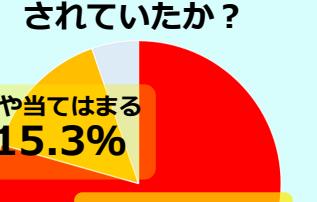
#### 一人一台端末を授業中で有効的に活用できたか？



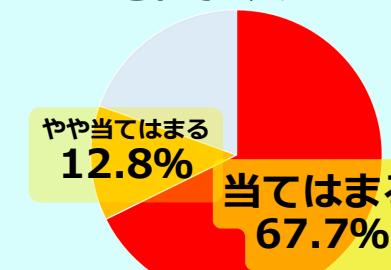
探究する姿  
が見られる授業実践が  
されていたか？



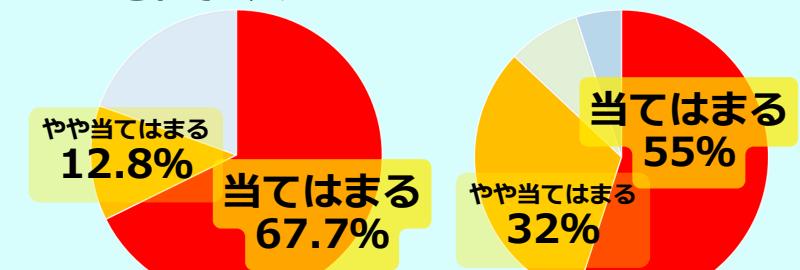
協働する姿  
が見られる授業実践が  
されていたか？



自ら学びを調整する姿  
が見られる授業実践が  
されていたか？



一人一台端末を家庭で  
有効的に活用できたか？



## 課題とこれからの取り組み

### 着実に進んでいるICT利活用と組織的な授業づくり

「ICT利活用と組織的な授業づくり」は着実に進展している。ロイロノートなどのツールを通じて教員間の情報共有が活発になり、生徒の思考の可視化や意見交流を取り入れた協働的な授業が広がってきた。探究・協働・自己調整といった学びの姿が日常に根づきつつあり、校内研修や授業見学を通じたチームでの授業改善も定着しつつある。一方で、アナログとデジタルの棲み分けであったり、よりよい振り返りの方法の策定など課題も見えてきた。今後も、深い学びにつながる実践の質を高め、前述の課題を「チームいくひ」で改善していくことが求められる。

### わたしたちが見せる3つの姿

生徒の3つの姿が見られる授業を目指しているが、これはわたしたち自身が見せるべき姿である。よりよい授業を実現するためにも、わたしたち自身が授業を「振り返り」、他の先生と「協働」し、より良い授業を「探究」し続ける必要がある。

## 指定校変遷

### ICT利活用授業研究推進校

R4年度～6年度指定（R7年度からも継続指定）

iPad×ロイロノート×電子黒板×生成AIを用いた授業、Google for EducationやCanvaなどの活用も

R4

R5

R6

R7

リーディングDXスクール DXハイスクール

生成AIパイロット校（R5年度）授業等での生成AIの活用を研究

R6年度指定（R7年度からも継続予定）デジタル人材育成のためのカリキュラム開発

### 神奈川県立生田東高校 研究ICTグループ

所在地：〒214-0038 神奈川県川崎市多摩区生田4-32-1

電話番号：044-932-1211

